

日本の国際放送「ラジオ日本」

坂 卷 博 和

現在、世界で短波による国際放送を行なっている国の数は80以上あり、その放送機関の経営形態は大きく分けて3つになります。1つは国営放送で、アメリカのVOA、ソ連のモスクワ放送、中国の北京放送、又それに新興国、途上国のほとんどがこれに含まれます。次に多いのは公共放送で、イギリス(BBC)、西独(ドイツペレ)、他にフランス、カナダ、豪州などがこれに属します。NHKのラジオ日本も公共放送です。第三のグループには、パチカン放送、アンデスの声といった宗教局、又、いくつかの商業放送局があります。

これらの放送局が、1人でも多くのリスナーを獲得しようとしてせりあっていますが、国策、宣伝の色彩の強いものは、信頼を失っていくようです。代って、完全な言論の自由、編集権の自立を確保している公共放送機関、例えば、BBCのワールドサービスなどは、自由圏諸国だけでなく、共産圏諸国のリスナーからも高い評価を受けています。NHKの国際放送もBBCと同様に信頼できる放送として高く評価されています。

NHKの国際放送が放送を開始したのは、昭和10年、6月1日のことでした。放送時間は1時間、使用言語は日本語と英語だけで、ニュース、解説、音楽、演芸等が主な内容でした。それから不幸な戦争の時代を経て、NHKの海外放送は、昭和20年の第二次世界大戦の終結から7年近くにあたって中止され、本格的に国際放送として業務を再開したのは、昭和27年、2月1日のことでした。放送時間は日英の2カ国語による1時間だけでした。

現在、ラジオ日本は、1日二系統、のべ43時間、21の言語で放送しています。1つの系統をジェネラルサービス、つまり一般向け放送といって、全世界を対象とした、ワールドサービスで、日本語と英語で毎正時、原則として、日本時間の奇数時に日本語、偶数時に英語で放送しています。も

う、1つは、リージョナルサービスという地域向け放送で、中国語、ロシア語、アラビア語等、日英両語を含む21の言語でそれぞれの言語の話される地域の聴取好適時間帯に放送されています。ラジオ日本の放送は、日本の実情を正しく外国に伝え、国際間の相互理解を促進することや、年々増え続ける海外の日本人に多様な情報を提供することが要請されているため、ニュースや解説等の報道関係の番組を中心に編成されています。その他に、日本の社会、文化、科学、伝統、音楽、スポーツ等を紹介する番組もあります。

これらの中で、現在の複雑、かつ変化の激しい世界情勢において、国際放送の有用性が発揮されるのは、緊急時のニュース対応です。事件、事故、政変といった事態で、放送の果たす役割の大きさはよく知られています。外国でクーデターや政変があった場合、政権を握った側は、言論活動を制限し、自分の不利になる情報を流さないのが普通です。その場合、その国の国民、又外国人は自分たちの住んでいる国や地域の状況が詳しくわかりません。暴動、内乱といったような時には、情報の不足は、生命、財産の安全にかかわります。中国での天安門事件、フィリピンでの軍の一部の反乱など、こうした状況はたえず起こっています。こうした際の国際放送の役割はきわめて重大です。

現在の短波による国際放送は、はるか上空の電離層と地表をバウンドしながら、地球の反対側にまでも到達するという特徴をもっているため、条件さえよければ、国境に関係なく、どこでも受信できるという性格をもっています。例えば、政変が起こった国で、国内のテレビ、ラジオの放送が統制下におかれても、短波による国際放送はその国や地域で受信することができます。天安門事件の時、ラジオ日本は、放送時間の延長などによって、事態に対処し、多くの在中国日本人に情報を送り続けました。サンフランシスコの大地震の際にもラジオ日本をきいて正しい情報を得たという報告が在サンフランシスコの日本人リスナーから寄せられています。これらは過去、ラジオ日本が緊急時に対応した例のほんの一部で、実際は数多くあります。又、これからも少なからず起こると思われます。衛星放送等、通信手段の発達には著しいものがありますが、送り手から直接、何の内容的変更もなく、受信者に電波を通じて情報を伝える、国際放送は、ハード面での充実による受信改善もはかられており、その有用性を更に増してい

くものと思われます。

現在、日本は様々な面で世界から注目されていますが、どれほど正しく外国から理解されているのでしょうか？ 日本を正しく世界に知らせ、外国にいる日本人に最新の情報を様々な分野から伝えるという使命をもつNHKの国際放送「ラジオ日本」の役割は、これから、更に大きくなっていくように思われます。以上

〔外国語研究センター主催講演会，1989年11月1日〕